

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研究課題	4	ツキノワグマの個体数推定制度の向上ならびに生息密度がツキノワグマの出没に及ぼす影響（R4-8）				
研究目的・背景	<p>県による有害駆除数や狩猟数の捕獲上限数の設定は、県全域を対象とした個体数推定結果を基に策定されているが、現行のクマの個体数推定法では、クマの移動特性を考慮に入れたモデルとなっておらず、推定値に偏りがある可能性が高い。そのため、今研究では、行政において毎年度設定している捕獲上限数について、それを求める際に必要である生息数の推定精度を上げるため、クマの移動特性を考慮に入れた個体数推定モデルの構築を目指す。</p> <p>また、地域個体群の維持のためには、地域別の生息密度を考慮に入れた管理が必要であるが、生息密度とクマの出没件数や有害捕獲数等の他のデータとの関係性は明らかにされておらず、今回の研究ではこの関係性についての詳細を明らかにし、クマの適切な保護管理に資する資料とすることも目的とする。</p>					
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個体数推定精度の向上 ・ 生息密度がツキノワグマの出没に及ぼす影響 					
評価結果	<p>○総合評価 A（5）・B（0人）・C（0人）・D（—人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマの被害が相次いでいる現状において、重要で緊急性の高い研究課題である。また、研究成果をイノシシなど他の動物にも応用できる可能性もあり、有益な研究と評価できる。 ・被害の報告数が減少しない中、生息数と生息状況の把握、被害との関係をさらに精緻化する重要な研究ですので、外部機関、外部資金の活用等による効果的な推進を期待します。 ・重要な課題であり、今後の施策への反映も期待できる。優先的に取り組むべき課題と評価できる。 ・保護管理計画の基礎となるものであり極めて重要。できるだけ早く精度の高い個体数推定をお願いしたい。 ・駆除と保護の両立が求められるツキノワグマ対策に向け、新規な手法の導入により正確な個体数推定を進めようとしており、大きな成果が期待される。 					
センターの対応方針	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 研究計画のとおり実施</td> <td style="width: 50%;">2 一部見直しの上実施</td> </tr> <tr> <td>3 今後再検討（計画再考）</td> <td>4 実施しない（中止）</td> </tr> </table> <p>本研究は、クマの個体数を適正管理するために重要な生息数の推定について、その精度を上げるためクマの移動特性を考慮に入れた新しいモデルの構築を目指すものであり、岩手県のクマの保護管理を進めて行くうえで重要な研究となるものである。</p>		1 研究計画のとおり実施	2 一部見直しの上実施	3 今後再検討 （計画再考）	4 実施しない （中止）
1 研究計画のとおり実施	2 一部見直しの上実施					
3 今後再検討 （計画再考）	4 実施しない （中止）					

※ 記載欄は適宜調整（拡縮）してください。